



施策・事務事業マネジメントシート【令和6年度】

1 施策の基本情報

施策名	04 学校教育の充実	
目的	対象	小・中学生
	意図	基礎的な知識や社会性、体力が身に付き、自ら学び、考える力を培う
施策の方向	次代を担う子どもたちが、それぞれの個性を伸ばし、主体的に考え、生きる力を育むための機会を推進するとともに、支援を必要とする子ども一人一人に応じた学びと成長を促します。また、そのために必要な環境を整えます。	

2-1 施策全体の考察①（施策の目的、方向に対する考察）

<p>施策の目的、方向に対する考察</p> <p>調布の子どもたちが、徳・知・体の調和のとれた成長と、国際化、情報化の進展など、社会の変化に主体的に対応できる力を身に付けることを目指し、GIGAスクール構想に基づくICT教育の推進、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の計画的な導入、市立学校における働き方改革プランの推進による学校教育の質の維持・向上、不登校生徒を支援するための中学校適応指導教室の設置に向けた検討、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーによる支援体制の充実、第2期調布市特別支援教育推進計画に基づいた特別支援教育の推進、教育人口の推移や施設の老朽化等を踏まえた学校施設の整備などを行った。</p> <p>日々変化を続ける社会情勢や教育環境を注視しながら、引き続き、学校教育の充実に努めていく。</p>
--

2-2 施策全体の考察②（まちづくり指標の推移／考察）

まちづくり指標	単位	基準値 (基準年度)	実績値 (R5年度)	目標値 (目標年度)	指標の推移 (※)	考察
「いじめはどんな理由があってもいけないこと」を理解した児童・生徒の割合	%	(小学校) 95.6 (中学校) 95.6 令和4年度	(小学校) 95.3 (中学校) 93.9	(小学校) 100 (中学校) 100 令和8年度	▼	・年3回の「ふれあい月間」（東京都6・11月、調布市2月）を実施し、いじめの現状について全小・中学校と共有した。年3回以上のいじめに関する校内研修を実施させ、解消に向けた取組について年1回研修を実施するなど、情報共有と教員の資質向上に努めた。 ・学校が教育活動全体で児童・生徒のいじめに関する理解・啓発の充実に向けた取組を支援していく。
全国学力・学習状況調査（国語・算数（数学））における東京都の平均正答率を上回った各科目の合計ポイント数	ポイント	(小学校) 4 (中学校) 5 令和4年度	(小学校) 3 (中学校) 3	(小学校) 7 (中学校) 7 令和8年度	▼	・国語（小・中）、算数・数学の平均正答率は全国及び東京都平均を上回っている一方で、中学校英語は全国平均は上回っているものの東京都平均と同程度のため、一層の向上を図っていく。 ・少人数・習熟度別指導等の充実、児童・生徒の主体性を重視する授業づくりに対する指導・助言を行い、児童・生徒の基礎的知識・技能の習得や学習満足度の向上を図る。
「主体的・対話的に学習活動に取り組んだ」と考えた児童・生徒の割合	%	(小学校) 77.1 (中学校) 77.0 令和4年度	(小学校) 76.7 (中学校) 78.1	(小学校) 90.0 (中学校) 90.0 令和8年度	(小学校) ▼ (中学校) ○	・ICTを授業で活用する機会を積極的に設定させる。日常的に授業改善を行うための視点を示し、学習活動の充実を図っていく。
東京都「児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」における東京都（各学年・男女別）の体力合計点と市の体力合計点の比較	ポイント	(小学校) ▲3.7 (中学校) 1.8 令和4年度	(小学校) ▲1.3 (中学校) 5.8	東京都の平均値を上回る 令和8年度	○	・体力合計点の東京都平均との比較は、小学校低学年がやや低く、学年が上がるにつれて状況が改善している。中学校は男女共に、東京都平均を上回っている。 ・日常における運動習慣を確立させるとともに、体力向上に向けた取組を充実させる。
体育の授業における、体力・運動能力向上の目標を立てている児童・生徒の割合	%	(小学校) 男69.8 女62.5 (中学校) 男61.3 女56.9 令和4年度	(小学校) 男67.0 女61.6 (中学校) 男62.9 女61.2	(小学校) 男75.0 女75.0 (中学校) 男70.0 女70.0 令和8年度	(小学校) ▼ (中学校) ○	・意識調査において、小学校では割合が下がり、中学校では向上している。授業において、児童・生徒が運動に主体的に取り組んだり、体育を学ぶ意義や目的を理解したりすることができるよう授業改善の取組を進めていく。 ・学校が体力・運動能力に関する具体的目標を定め、課題となっている運動内容について改善を図る取組を進めていく。
通常の学級における、特別な支援が必要な児童・生徒の数に対する個別指導計画の作成率	%	(小学校) 88.9 (中学校) 69.0 令和4年度	(小学校) 93.4 (中学校) 99.6	(小学校) 100 (中学校) 100 令和8年度	○	・定例校長会をはじめ各種連絡会・研修会で個別指導計画の作成の重要性を周知した。 ・作成した個別指導計画を基に、指導・支援の更なる充実を図ることが課題である。
コミュニティ・スクール導入校数	校	未設置 令和4年度	3	28 令和7年度	○	・計画的に導入準備を行い予定通り3校（第三小・上ノ原小・第五中）のモデル導入を行った。令和7年度の全校導入に向け引き続き取組を進めていく。
調布市防災教育の日の参加者数	人	1万7,811 令和4年度	2万9,959	3万 令和8年度	○	・令和元年度以来4年ぶりの引き取り訓練を実施し、保護者数が増えた。 ・市、学校、地域、関係機関が、災害時に適切な対応が行えるような取組を継続する。

耐用年数を基本に屋上防水・校舎の外壁・受変電設備が予防保全できている学校の割合	%	(屋上防水) 100 (外壁) 100 (受変電設備) 100 令和3年度	(屋上防水) 100 (外壁) 100 (受変電設備) 100	(屋上防水) 100 (外壁) 100 (受変電設備) 100 令和8年度	◎	・基本計画、調布市学校施設整備方針及び調布市公共施設マネジメント計画に基づき、計画更新年数内での計画的な改修を実施することにより、目標を達成した。 ・引き続き、計画更新年数内での計画的な改修を実施していく。
---	---	--	---------------------------------------	--	---	--

※ ◎：目標達成 ○：目標値を未達成（前年度より向上した） ▼：目標値を未達成（前年度より低下した） ⇒：目標値を未達成（前年度と同じ又は前年度数値未把握） -：数値未把握（調査未実施など）

3 施策を構成する基本計画事業等の取組実績／今後の方向

■04-1 豊かな心の育成

基本計画事業以外の主要な取組実績	今後の取組の方向
①「調布市防災教育の日」や「いのちと心の教育」月間において、「命」の授業を実施することで、自他の生命を大切にすることや、他者との違いを理解し、互いに認め合うことができる心豊かな教育活動を推進した。 ②いじめに関する授業を年間3回実施し、いじめは人間として絶対に許されない人権侵害であることを理解させ、よりよい集団生活を築こうとする態度の育成を図った。 ③八ヶ岳、日光、木島平移動教室を全校予定通り実施した。また、中学生職場体験事業を4年ぶりに実施した。	①引き続き、「命」の授業や「いのちと心の教育」月間に計画的に取り組むとともに、取組の質の向上に向けて校長会、副校長連絡会等を通じて指導を行っていく。 ②多様な人権課題について指導の充実を図り、人権意識の向上を図る。 ③引き続き、多様な体験活動の場の確保・充実に努める。

■04-2 確かな学力の育成

No	基本計画事業名	R 5 取組実績	R 5 取組説明	今後の方向	今後の取組の方向
17	【重点②】 ICT環境の整備・活用と 情報教育の推進	<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり <input type="checkbox"/> 計画遅れ <input type="checkbox"/> 計画前倒し	・教育用ネットワークシステムの更新について、教員用端末及びネットワーク構成について整備方針を策定した。 ・増教室等で使用するプロジェクター及び小学校用 iPad のWi-Fiモデル端末を追加整備し、ICT環境の充実を図った。 ・ICT支援員による訪問支援のほか、ICTを活用した授業実践事例共有サイトの試行実施により、ICTに関する児童・生徒の活用能力及び教員の指導力の向上につなげた。	<input checked="" type="checkbox"/> 現状継続 <input type="checkbox"/> 有効性改善 <input type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 財政面改善 <input type="checkbox"/> 参加と協働改善	・児童・生徒用端末について、令和7年度の更新に向け、国及び東京都から示される共同調達の情報を見直ししながら、更新時に調達するOSや端末等の検討を進める。 ・令和6年8月に市立小・中学校全校の教員用端末やネットワーク機器を更新し、クラウド化及びセキュリティ機能の強化等により、更なる教育の質向上を目指す。 ・増教室で使用するプロジェクターを追加整備する。 ・ICT支援員の継続配置や事例共有サイトの改善に取り組み、教員のICTを活用した指導力の向上を図る。

基本計画事業以外の主要な取組実績	今後の取組の方向
①小中連携教育在り方検討委員会を設置し、小中連携の在り方や調布市小中連携教育の日の設定について検討した。 ②日本語指導教室や日本語指導臨時講師を活用し、日本語による会話等に困難を有する児童・生徒を支援した。 ③外国語指導助手（ALT）やTOKYO GLOBAL GATEWAY（TGG）GREEN SPRINGSを活用し、コミュニケーション能力の育成を図った。 ④各学校の学校図書館全体計画及び年間指導計画に基づき、児童・生徒の読書活動や学習支援の充実につなげた。	①調布市小中連携教育の日を設定し、中学校区の学校が一堂に会して、児童・生徒の情報交換を行う。 ②各事業を活用しながら個々の児童・生徒の実態に応じた指導内容や指導方法の充実を図る。 ③引き続き取組を推進し、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図る態度や力を養う。 ④各学校の学校図書館全体計画及び年間指導計画に基づき学校図書館の活用を推進する。

■04-3 健やかな体の育成

No	基本計画事業名	R 5 取組実績	R 5 取組説明	今後の方向	今後の取組の方向
18	児童・生徒の体力向上への支援	<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり <input type="checkbox"/> 計画遅れ <input type="checkbox"/> 計画前倒し	・一流アスリートを指導者として、学校への出前授業を行うとともに教員向けの指導方法の研修を行った。 ・ジュニア陸上体験教室を実施し、走り方の基礎・基本及びトレーニング方法の指導を受けた。 ・体力向上検討委員会を開催し、学校で取り組める体力向上施策について検討したほか、取組事例を各学校へ周知するなど、次年度の教育課程に反映させた。	<input checked="" type="checkbox"/> 現状継続 <input type="checkbox"/> 有効性改善 <input type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 財政面改善 <input type="checkbox"/> 参加と協働改善	・体力向上検討委員会において、東京都児童・生徒体力、運動能力、生活・運動習慣等調査の結果を分析し、課題を明確にしたうえで、体育授業の改善を含めた体力向上施策の充実を図る。 ・ジュニア陸上体験教室や学校への陸上出前授業を継続的に実施する。 ・教員の体育における指導力向上を目指し、実技研究の充実を図る。 ・水泳指導員や運動部活動における外部指導員等、地域人材等の更なる活用を推進し、基礎体力の向上及び専門的技術の習得を図る。

基本計画事業以外の主要な取組実績	今後の取組の方向
①FC東京、読売ジャイアンツ、東芝ブルーパス東京などのプロスポーツチームの選手との交流を通して、体力・運動能力の向上を図るとともにスポーツの魅力を広げる取組を行った。 ②給食の時間等を活用した食育を推進した。（市立小・中学校全28校） ③親子料理教室を実施した。（令和5年8月1日から8月4日） ④調布市食育講演会を実施した。（令和5年6月24日）	①スポーツ振興課と連携し、プロスポーツチームによる学校訪問を通じて、児童・生徒がスポーツの魅力に触れる機会を創出する。 ②給食の時間等を活用した食育を推進する。 ③親子料理教室を実施する。 ④調布市食育講演会を実施する。

■04-4 個に応じたきめ細かな支援

No	基本計画事業名	R 5 取組実績	R 5 取組説明	今後の方向	今後の取組の方向
19	【重点②】 特別支援教育の推進	<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり <input type="checkbox"/> 計画遅れ <input type="checkbox"/> 計画前倒し	・第2期調布市特別支援教育推進計画の取組を推進し、1年次目の成果と課題を検証、改善策を検討した。 ・小中学校全校に配置したスクールサポーターや、通級指導教員、特別支援教室専門員の配置により、特別な支援を要する児童・生徒に対し、きめ細かな支援を行った。 ・令和6年度に新たな特別支援学級を北ノ台小学校に新設するため準備した。	<input checked="" type="checkbox"/> 現状継続 <input type="checkbox"/> 有効性改善 <input type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 財政面改善 <input type="checkbox"/> 参加と協働改善	・第2期調布市特別支援教育推進計画に基づき、取組を推進する。 ・特別支援学級における教科の指導内容表を作成し、その検証を進める。 ・通常の学級、特別支援学級、校内通級教室等の教員及び特別支援教育専門員、スクールサポーター、特別支援学級支援員、特別支援教育コーディネーターを対象とした研修の充実を図る。 ・ICT環境を充実させるとともに、デジ教科書の利用や特別支援教育に係るアプリケーションの充実を図り、児童・生徒の教育的ニーズに応じた活用を推進する。
20	【重点②】 不登校児童・生徒への支援	<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり <input type="checkbox"/> 計画遅れ <input type="checkbox"/> 計画前倒し	・現行の不登校支援に関する取組の成果と課題を検証し、調布市不登校児童・生徒への支援プランを策定した。 ・不登校の未然防止のため「魅力ある学校づくり調査研究事業（国立教育政策研究所）」の取組を継続した。 ・訪問型支援「みらい」の実施、「テラコヤ・スイッチ」の対象拡大など、不登校児童・生徒への支援の充実を図り、個に応じたきめ細かな支援の取組を推進した。	<input checked="" type="checkbox"/> 現状継続 <input type="checkbox"/> 有効性改善 <input type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 財政面改善 <input type="checkbox"/> 参加と協働改善	・調布市不登校児童・生徒への支援プランに基づき、取組を推進する。 ・適応指導教室「太陽の子」の教育環境を更に充実させる。 ・不登校の未然防止に向けた取組を継続する。 ・不登校児童生徒支援プロジェクトSWITCHの一環として、東京学芸大学と連携し、「メンタルフレンド」「テラコヤ・スイッチ」「学校に行きづらい子どもの保護者の集い」を継続する。 ・訪問型支援「みらい」による支援を充実させる。
21	学校における「学び」に困難を抱える子どもたちへの支援	<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり <input type="checkbox"/> 計画遅れ <input type="checkbox"/> 計画前倒し	・心理・医療等の専門家が必要に応じて各学校を巡回し、子どもに関する助言を教員に行うことで、学びに困難を抱える子どもたちへの支援に寄与した。 ・教育支援コーディネーターやスクールソーシャルワーカーが、不登校や特別な支援を必要とする児童・生徒、養育が困難な家庭等の相談を受け、学校や関係機関と連携を図り支援を行った。	<input checked="" type="checkbox"/> 現状継続 <input type="checkbox"/> 有効性改善 <input type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 財政面改善 <input type="checkbox"/> 参加と協働改善	・スクールソーシャルワーカーを増員し、各中学校を拠点とし、全ての学校に週1日、半日以上配置する「学校配置型」による支援を開始する。 ・教育支援相談・来所相談・電話相談・就学相談・巡回相談を継続して実施し、個に応じたきめ細かな教育相談の充実を図り、様々な状況の児童・生徒を支援する。

基本計画事業以外の主要な取組実績	今後の取組の方向
①学校に行きづらい子どもとその保護者への支援として、小学1～3年生とその保護者を対象に「表現あそび」事業を2回実施し、実技体験プログラムや保護者同士のグルーブワークを行い、小学生11人とその保護者が参加した。 ②市報・市ホームページ・ちょうふの教育・学校安全・安心メールに就学援助制度に関する情報を掲載するとともに、学校や関係部署と連携し、児童・生徒の保護者に対し、制度案内等を配布することで制度を広く周知した。また、実際に援助が必要な時期に合わせた支給を行うため、新入学予定の保護者に対し、新入学準備金を入学前に支給した。	①小学1～3年生とその保護者を対象にした事業を実施し、学校に行きづらい子どもとその保護者への支援を充実させる。また、中学生を対象とした適応指導教室新設に向けて設置場所等を含め検討する。 ②制度について市報・市ホームページ・ちょうふの教育・すぐる（調布市学校安全・安心情報配信システム）を活用し、周知していくことを継続する。

■04-5 魅力ある学校づくりの推進

No	基本計画事業名	R 5 取組実績	R 5 取組説明	今後の方向	今後の取組の方向
22	【重点②】 コミュニティ・スクールの導入と地域学校協働本部との一体的推進	<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり <input type="checkbox"/> 計画遅れ <input type="checkbox"/> 計画前倒し	・地域学校協働本部について、学校で学習支援員をはじめとした地域人材の活用を図ることができた。 ・令和5年度に導入したモデル校3校（第三小・上ノ原小・第五中）に対する活動状況の把握に努めるとともに、必要に応じて助言や支援を行ったほか、令和6年度以降に導入を予定している学校の管理職、教職員、委員予定者を対象に研修会を実施し、制度の理解促進と導入準備を行った。	<input checked="" type="checkbox"/> 現状継続 <input type="checkbox"/> 有効性改善 <input type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 財政面改善 <input type="checkbox"/> 参加と協働改善	・管理職や地域コーディネーター同士の情報共有を図り事業の活性化につなげる。 ・統括コーディネーターが学校を訪問し、指導・助言することで地域学校協働本部の円滑な運営を支援していく。 ・令和5年度モデル導入における効果や課題を整理し、今後の導入校に対する支援を行いながら、円滑な導入につなげていく。 ・地域学校協働本部とコミュニティ・スクールの一体的な推進により、教育活動の更なる充実や活性化を図る。

基本計画事業以外の主要な取組実績	今後の取組の方向
①スクール・サポート・スタッフ及び副校長補佐を継続配置、部活動指導員の増員、エデュケーション・アシスタントの新規配置など、学校への人的支援を行い、教員の負担軽減及び学校教育の質の維持向上を図った。 ②学校徴収金（給食費及び教材費）の管理についてアウトソーシングを活用し、帳票類の作成等に係る教職員の事務負担の軽減に努めた。また、事務職員と連携し、効果的な運用について検討を行った。 ③学校選択制を希望した全ての新入生の入学を決定し、個性の伸長を促進した。 ④部活動の地域連携・地域移行について、庁内関係部署及び関係機関で組織した協議会を設置し検討を行った。	①学校における働き方改革プランに基づき、人的支援を充実し、教員の負担軽減を図る中で、教員が児童・生徒に向き合う時間を一層確保できるよう取組を継続する。 ②学校給食費無償化に伴い、アウトソーシングの効果検証を行うとともに、学校給食費公会計化の検討を行う。 ③学校選択制に関するアンケート調査のとりまとめ等により、ニーズや現状把握を行うとともに、学校を取り巻く状況を踏まえた検証を行い、今後の制度のあり方を検討する。 ④（仮称）部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画を策定し、モデル事業の実施を含め今後の取組を検討する。

■04-6 安全・安心な学校づくりの推進

No	基本計画事業名	R 5 取組実績	R 5 取組説明	今後の方向	今後の取組の方向
23	【重点①】 命の教育活動の推進	<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり <input type="checkbox"/> 計画遅れ <input type="checkbox"/> 計画前倒し	・防災教育の日における「命」の授業、防災啓発講話、避難・引き取り訓練の実施や避難所開設訓練を実施した。 ・教員に対する上級救命講習、児童・生徒に対する救命講習を実施した。 ・各校2人の教員が応急手当普及員の資格を保有し、その知識を児童・生徒及び教員に還元する体制を維持した。 ・「いのちと心の教育」月間（12月）において、心豊かな教育活動を推進した。	<input checked="" type="checkbox"/> 現状継続 <input type="checkbox"/> 有効性改善 <input type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 財政面改善 <input type="checkbox"/> 参加と協働改善	・防災教育の日における取組を引き続き推進し、市、学校、地域、関係機関が、災害時に適切な対応が行えるような取組を継続する。 ・教員に対する上級救命講習、児童・生徒に対する救命講習を引き続き推進する。 ・応急手当普及員の講習会・研修会等を継続的に実施することで取組を推進する。 ・「いのちと心の教育」月間に計画的に取り組みとともに、取組の質の向上に向けて校長会、副校長連絡会等を通じて指導を行っていく。

基本計画事業以外の主要な取組実績			今後の取組の方向		
①学校危機管理マニュアルに基づいた避難訓練や安全指導の充実を図った。 ②SNS東京ノートを活用した知識・技能の習得、調布警察署と連携した安全教育など、セーフティ教室を推進した。 ③児童・生徒が相談できる環境の整備や自殺予防に関する知識を身に付けることを目的に、SOSの出し方教育を実施した。 ④学校・調布警察署・道路管理者とともに通学路において改善が必要な箇所の合同点検を実施し、可能な限り安全対策を実施した。 ⑤通学路等を撮影する防犯カメラの維持管理を行うとともに、通学路マップの作成・配布などの安全対策を実施した。			①学校危機管理マニュアルに基づき、月1回実施する避難訓練や安全指導の充実を図る。 ②セーフティ教室や生命（いのち）の安全教育を継続的に推進する。 ③SOSの出し方教育を各校の教育課程に確実に位置付けるよう促し、学校が意図的・計画的に実施できるように体制を整備する。 ④⑤学校・調布警察署・道路管理者に加え、地域と連携を図りながら通学路の安全確保を図る。		

■04-7 学校施設整備の推進

No	基本計画事業名	R 5 取組実績	R 5 取組説明	今後の方向	今後の取組の方向
24	【重点②】 小・中学校施設の整備	<input type="checkbox"/> 計画どおり <input checked="" type="checkbox"/> 計画遅れ <input type="checkbox"/> 計画前倒し	・学校施設の維持保全を実施した。 予防保全（設計1校）、老朽化対策（工事3校）、給食室改修（工事2校） ・学習環境の改善を図った。（工事2校） ・学校施設整備方針に基づく整備を実施した。 若葉小・第四中施設整備に伴うPFI事業者選定 ・児童・生徒増加に伴う施設整備を実施した。（設計1校） ・35人学級編制への対応を図った。（工事1校） ・特別支援教室の整備を実施した。（工事1校）	<input checked="" type="checkbox"/> 現状継続 <input type="checkbox"/> 有効性改善 <input type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 財政面改善 <input type="checkbox"/> 参加と協働改善	・学校施設の更新として、若葉小学校及び第四中学校の施設一体型整備の実施に向け、令和6年度に事業者の選定、設計を実施し、令和7、8年度に工事を実施する。 ・「2050年ゼロカーボンシティ調布」を目指す取組として、学校校舎内照明器具のLED化改修を推進する。 ・安全・安心で快適な教育環境の整備を行うにあたり、「調布市公共施設マネジメント計画」及び「調布市学校施設整備方針」に基づく計画的な維持保全改修として、体育館内部改修工事、校舎の外壁及び屋上防水改修工事、アレルギー対応専用調理室の整備を含む給食室改修工事を実施する。

基本計画事業以外の主要な取組実績			今後の取組の方向		
①給食室改修工事の際に、食物アレルギー対応専用調理室を整備した。			①調布市公共施設マネジメント計画に基づき、給食室改修工事に食物アレルギー対応専用調理室を整備する。		

4 施策の推進、成果向上の視点（4つの視点）を踏まえた令和5年度の取組実績及び令和6年度以降の具体的な取組

デジタル技術の活用	共創のまちづくり
・児童・生徒1人1台端末を活用し、教科等の特質に応じた学習活動の充実 ・教員用端末や統合型校務支援システム等、各種ICT機器及びシステムの整備及び利活用による、教員の業務効率化を通じた教育活動の質の維持・向上 ・ICT機器を活用した、食育の推進 ・東京都補助事業である「米粉パン等の国産食材を使用した食育支援事業補助金」を活用し、給食ができるまでの動画を作成【令和5年度】	・NTT東日本及びNTTアグリテクノロジーと連携し、ローカル5Gを活用した新しい農業技術で栽培されたトマトを学校給食で使用
脱炭素社会の実現	フェーズフリー
・学校給食における地場農産物の活用促進 ・学校校舎内照明器具のLED化改修について、令和5年度には小学校2校で実施。令和6年度には小学校3校、中学校3校において実施予定	・若葉小学校及び第四中学校の施設一体型整備において、学校のハード面におけるフェーズフリーを検討予定